

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第1号 畜産

発行日 平成25年 3月21日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 維持草地、更新草地の早春施肥を早めに行います。また新播草地では、必要に応じて雑草を防除します。
- ◆ 除染後の新播草地では、供給される追加肥料を確実に散布します。

1 牧草地の維持管理、更新草地の管理

(1) 早春施肥

- ア 雪解け後、トラクタ作業に支障のない圃場となったら、出来るだけ早めに施肥し、一番草の収量を確保します。
- イ 維持草地の施肥成分量の目安は表1のとおりです。昨年秋に更新した圃場で、堆肥投入量が多かったなどの場合は、窒素施用量を少し減らし、倒伏を防ぎます。

表1 牧草地の早春等の施肥基準(維持管理)

平成23年3月岩手県牧草・飼料作物生産利用指針

区分	草地種類	施肥時期	10aあたり施肥量(kg)		
			窒素	リン酸	カリウム
採草地	オーチャードグラス主体	早春	10	5	10
	チモシー主体	早春	*10	5	10
放牧地	スプリングフラッシュ抑制	早春(牧草ほう芽期)	6	3	3
		初夏(6月中旬)	6	3	3

*チモシー主体草地では倒伏防止のため、利用初年度の早春の窒素施用量は5kg/10a程度に抑える

(2) 新播種草地の雑草対策

ア 掃除刈り

ハコベ、ナズナ、ヒメオドリコソウ等の一年生、越年生雑草が多い場合は、掃除刈りを行います。牧草草丈10cm以上、雑草草丈20~30cmになったころを目安として、刈高15cm程度の高刈りで行います。作業機の刈刃をよく研磨し、新播牧草の引き抜きを防ぎます。

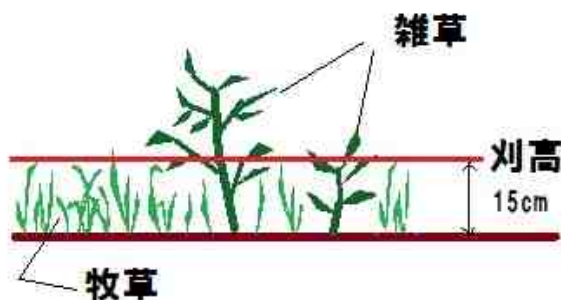


図 掃除刈りのイメージ

イ 除草剤

牧草生育と雑草発生のタイミングが合いそうもない場合、掃除刈り草量が多く集草と圃場外持ち出しが困難と考えられる場合、実生ギンギンが多い場合などは、選択制除草剤のうちアージラン液剤もしくはハーモニー75DF水和剤を用いた除草を行います。維持草地に使用する場合と薬液量が異なりますので、表2を参考に散布します。不明な場合は最寄りの普及センターにご確認下さい。

表 2 新播草地の除草剤

使用時期	除草剤名	10a あたり 散布量	対象 雑草	使用 回数	留意事項
秋～春期(9月～5月) ギンギン類の展葉時期(採草14日前まで)	アージラン 液剤	薬液 100ml 希釈水量 80-100L	ギンギン 類及びキ ク科雑草	1回(本 剤及びア ジランを 含む総 使用回 数)	1 気温が高いと薬害の恐れがあるので、地域の気温を考慮して使用する 2 アルファルファ新播草地では200～300mlを基準とする。 3 散布後14日は草地を利用しない。
新播草地定着後(ただしギンギン類草丈20cm以下)、但し採草21日前まで	ハーモニー 75DF 水和剤	薬剤 0.5～1g 希釈水量 100L	ギンギン 類	1回(本 剤及びア ジランを 含む総 使用回 数)	1 クローバーに薬害が生じる恐れがあるので使用しない 2 ギンギンが展葉してから散布する 3 調製した薬剤は速やかに散布すること 4 散布に用いた器具類は、使用後に500倍の消石灰液で確実に洗浄し、他の用途で使用する場合に薬害の原因にならないようにする 5 散布後21日間は採草及び放牧を行わない

2 除染後の牧草地の管理

(1) 追加肥料の散布(早春施肥)

平成24年中の調査において、土壌中の交換性カリウム含量が低い場合、牧草の放射性セシウム含量が高くなる事例が多くなり、交換性カリウム含量が一定の水準(40mg/100g)に達すると、ほとんど問題にならないことが確認されたことから、除染対策として草地更新を行う場合のカリウム施肥量は30kg/10aとしています。

ア 牧草地再生対策事業により除染した場合

既に元肥肥料(牧草地再生肥料24-1)を施用した圃場について、追加肥料(牧草地再生肥料24-3)が供給されていますので、供給された追加肥料を全量(10aあたり60kg)を散布して下さい。その他の肥料の追加施用は不要です。

イ 牧草地再生対策事業に参加せず自ら除染した場合

土壌中交換性カリウムが40mg/100gを満たすよう、通常の肥料に加えてカリウムを施用しますが、不明な場合は最寄りの普及センターにご確認下さい。

ウ その他(ア、イ共通)

堆肥や牛尿の大量散布は、カリ過剰が懸念され、また施用物の被覆により牧草の消長を助長しますので、散布する場合は1トン/10a程度にします。

表 3 追加肥料(牧草地再生肥料24-3)の成分含量と10aあたり60kg散布の成分量

保証成分(%)		10a あたり成分量(kg)	
窒素	カリウム	窒素	カリウム
8.4	42.0	5.0	25.2

(2) 雑草対策

1の「更新牧草地の管理」に準じて行います。

次号は4月25日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。